

脱亞論

JJ1SXA/池

脱亞論は、1885年(明治18年)3月16日に新聞「時事新報」紙上に掲載された無署名の社説であるが、福澤諭吉が執筆したとされている。(題名は後で付けられた)

原文は文語文体で読みにくいですが、大意はつかめると思います。

以下引用

(前略)…我日本の國土は亞細亞の東邊に在りと雖ども、其國民の精神は既に亞細亞の固陋を脱して西洋の文明に移りたり。然るに爰に不幸なるは近隣に國あり、一を支那と云い、一を朝鮮と云ふ。此二國の人民も古來亞細亞流の政教風俗に養はるゝこと、我日本國に異ならずと雖ども、其人種の由來を殊にするか、但しは同様の政教風俗中に居ながらも遺傳教育の旨に同じからざる所のある歟、日支韓三國三國相對し、支と韓と相似るの状は支韓の日に於けるよりも近くして、此二國の者共は一身に就き又一國に關して改進の道を知らず。

(中略)…我輩を以て此二國を視れば今の文明東漸の風潮に際し、逆も其獨立を維持するの道ある可らず。幸にして其の國中に志士の出現して、先づ國事開進の手始めとして、大に其政府を改革すること我維新の如き大舉を企て、先づ政治を改めて共に人心を一新するが如き活動あらば格別なれども、若しも然らざるに於ては、今より數年を出でずして亡國と爲り、其國土は世界文明諸國の分割に歸す可きこと一點の疑あることなし。

(中略)…支那朝鮮の政府が古風の専制にして法律の恃む可きものあらざれば、西洋の人は日本も亦無法律の國かと疑ひ、支那朝鮮の士人が惑溺深くして科學の何ものたるを知らざれば、西洋の學者は日本も亦陰陽五行の國かと思ひ、支那人が卑屈にして恥を知らざれば、日本人の義侠も之がために掩はれ、朝鮮國に人を刑するの慘酷なるあれば、日本人も亦共に無情なるかと推量せらるゝが如き、是等の事例を計れば、枚擧に遑あらず。

(中略)…其影響の事實に現はれて、間接に我外交上の故障を成すことは實に少々ならず、我日本國の一大不幸と云ふ可し。左れば、今日の謀を爲すに、我國は隣國の開明を待て共に亞細亞を興すの猶豫ある可らず、寧ろその伍を脱して西洋の文明國と進退を共にし、其支那朝鮮に接するの法も隣國なるが故にとて特別の會釋に及ばず、正に西洋人が之に接するの風に從て處分す可きのみ。惡友を親しむ者は共に惡友を免かる可らず。我は心に於て亞細亞東方の惡友を謝絶するものなり。

引用終わり…(途中省略の抜粋でした)

明治維新は、黒船の脅威(欧米列強の軍事的脅威)に対して、わが国の自尊獨立を賭けて行われた、この時代、国家というのは、西欧諸國のことであり、それ以外の世界中の有色人種國家は、單なる地域でしかありません、主權者の定まらない、ただの

地域だったからこそ、欧米諸国は、そこを植民地として支配して行ったわけです。

これに対して、日本は国家としての地位を保つために、廃藩置県で大名達に地位を失わせ、四民平等政策(士農工商の解体)で武士が失業してでも、日本の自主独立を保とうと必死の戦いのもと、明治国家として、国としての体裁を保ち、ただのエリアではなく、近代国家となっていた、そんな近代化を促進する日本にとって、当時の最大の懸案事項が朝鮮半島だった、地勢的に、朝鮮半島が欧米列強の植民地となれば、日本の独立が脅かされる存在となることは明白だったからだ。

朝鮮にも明治維新を模範として、清朝から独立し、朝鮮の近代化と自主独立を目指した若者が出てきましたが、抹殺されてしまいました。

彼の名前は、「金玉均」、1884年4月に、清国がベトナムをめぐるフランスと清仏戦争を開始したのを好機と見て、「閔妃」政権打倒のためのクーデターを起こしましたが、だが清国の武力介入で失敗し、わずか3日間でクーデター政権は崩壊してしまう、そして「金玉均」は、日本に亡命して来たが、清国の「李鴻章」と「閔妃」らの陰謀にひっかかり、上海で「凌遲刑」(りょうちけい…清の時代まで中国で行われた処刑方法の一つで、生身の人間の肉を少しずつ切り落とし、長時間苦痛を与えたくて死に至らず刑)に処され、朝鮮国内に切り刻まれた遺体を晒されました、この時代にもこの残酷刑、朝鮮民族(中華民族も)の残虐さここに極まるといふところか。

これで、朝鮮は自主独立の近代国家の芽が摘まれ、清国の属国のまま、日韓併合で日本がインフラ整備をするまで、汚い国土に貧民の蛮族の群れを抱える国に成り下がった、巨額の投資で国土を整備した日本に何故感謝できない！

歴史認識云々と大騒ぎする、朴大統領と韓国民は、日本の要人を爆弾で殺傷したテロリスト「尹奉吉」を独立運動の義士として顕彰するという馬鹿げたことをするより、「金玉均」の思想と行動を思い起こして反省し、日本に感謝の気持ちを持つべきだ。

今また、かつての冊封体制と変わらない覇権主義の中国に尻尾を振る韓国、東アジアカップ会場に、伊藤博文を暗殺した「安重根」の写真や横断幕を掲げ、過去にもロンドンオリンピックでの「独島」セレモニーも合わせ、無神経と言うより馬鹿・阿呆の類、「歴史を忘れる民族に未来は無い」は、そのままお返しだ、また、「日韓請求権並びに経済協力協定」第2条・両締約国は、両締約国及びその国民の財産、権利及び利益並びに両締約国及びその国民の間の請求権に関する問題が、完全かつ最終的に解決されたこととなることを確認する(1965年6月22日)、という協定があるにも関わらず、個人の賠償請求権は別だなどと、ふざけたことを言う、下手に出れば出る程付け上がる国柄、もううんざりだ、ある識者は、日本に対する劣等感から抜け切れずにいるのが朝鮮(韓国)であり、劣等感から抜け切るには、少なくとも後50年はかかるだろうと言っている、脱亜論の「…亞細亞東方の悪友を謝絶するものなり」が正解かも知れない、さあどうする？

(31,Jul,2013 記)